あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第13号
発行
平成23年6月1日
隔月発行

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げ、夢があふれる空間をめざします
発行:西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町 5-6-18　イングビル1階

「市民科学」へ助成 10 年

～トークサロン～
高木基金のあゆみ聞く

今年度 1 回目のゆめこらぼトークサロンは 5 月 13 日（金）、高木仁三郎市民科学基金事務局の菅波完（すばなみたもつ）さんを招き、基金 10 年のあゆみを中心に話していただきました。

故高木氏は東大で核化学を専攻しましたが、原子力への疑問や不安に対し、市民の立場で市民が本当に必要とする科学的な情報を提供しようと原子力資料情報室の設立・運営に尽力しました。高木氏の遺志により、遺産と香典、寄付などを財源に基金がつくられ 2001 年度から毎年、「市民科学」を目指す個人・グループに助成しています。

菅波さんは高木基金の収支の推移や 2010 年度決算の収支の内訳、助成先の実例とその調査研究の成果などを説明。これからの課題として「助成先同士の相互交流の場を設けて横のつながりをつくる」「良心に基づき権力とも闘う専門的批判勢力の組織化が大事」と述べました。

参加者からは原子力発電や自然エネルギーに関する意見や質問が相次いでありました。

いま、私たちにできることは…
大震災で緊急集会

「『大震災、いま私たちができること』を考える集い」が 4 月 2 日（土）夜、イングビルで開かれました。東日本大震災の被災地でボランティア活動が混乱していることなどから、ゆめこらぼがメーリングリストを使い急きょ呼びかけたところ、市民活動、放送などの関係者 22 人が参加しました。

復興支援への話題を提供していただいたのは、田無ソーシャルメディア研究会の原田光久さんと西東京芸術・文化市民協議会の山中好信さん。原田さんはブログやツイッターなどによる情報受発信の活用を探る立場から、情報通信機器の災害時の盲点や流言飛語への注意や、普段からの地域とのつながりを持つなど自ら備えることの大切さを呼びかけました。山中さんは空撮を含め直近の現地映像を紹介しながら、被災地の状況や被災者のニーズに合わせた支援が必要と訴えました。

参加者たちは募金活動や救援物資の収集活動、被災県の産品の購入など自らの体験を語り合ったり、自分たちのまちについて自治会組織の再生や情報伝達方法の改善などの課題を指摘したりしました。

＜6、7月のイベント予定＞

ゆめこらぼは6、7月に次のような主催事業を予定しています。詳細は毎月1日・15日発行の広報西東京（市報）をご覧ください。

■会計講座「NPO会計基準」

ＮＰＯの透明性を高めるために民間主導で開発された「ＮＰＯ会計基準」についてＮＰＯ会計の専門家がわかりやすく説明します。（6月9日まで受け付け、定員20人）▽6月10日（金）午後6時～8時30分、資料代500円、イングビル3階会議室

■NPO・市民活動団体 交流の夕べ

登録団体をはじめとするＮＰＯ法人や市民活動団体のネットワークづくりをめざし、交流していただきます。（6月17日まで受け付け、定員60人）▽6月18日（土）午後5時～7時、参加費500円、市役所田無庁舎1階食堂

■企業に聞く会「企業の災害支援とは」

大規模災害では市民や企業による幅広い支援が欠かせません。企業はどんな災害支援活動を行っているのか、日本経団連の長沢恵美子さんに話していただきます。（6月15日から受け付ける予定、定員20人）▽6月24日（金）午後6時30分～8時、イングビル3階会議室

■市民シンポジウム「子どもたちの笑顔あふれる元気なまちづくり」

東日本大震災の被災地の復興への願いも込め、明るいテーマで西東京のまちづくりをみんなで考えましょう。（6月15日から受け付ける予定）▽7月2日（土）午後1時～4時30分、アスタ2階センターコート

■専門相談会（NPO法人設立・組織運営）

ボランティアグループや市民活動団体からのNPO法人設立や、組織の運営（事業戦略、資金調達、人材育成など）について、NPO事業サポートセンターの専門相談員が各団体の相談に個別にお答えします。（7月1日から受け付ける予定。3団体まで。費用1団体1000円）▽7月15日（金）午後6時、イングビル3階会議室

■トークサロン「子どもの健やかな成長を願って」

財団法人・児童健全育成推進財団の阿南健太郎さんに話題を提供していただきます。（7月15日から受け付ける予定）▽7月30日（土）午後2時、イングビル3階会議室

NPO・市民団体実態調査

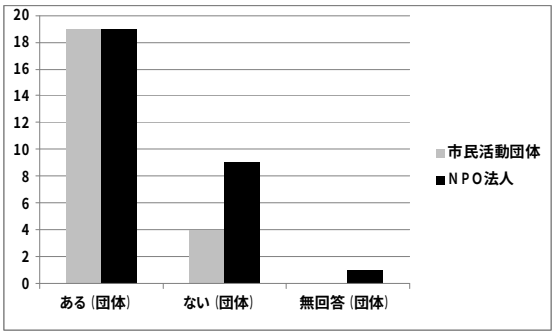
行政との協働 「ある」が多い

団体の課題、最多は「会員確保」

ゆめこらぼは、ＮＰＯ法人と市民活動団体の実態調査の結果をまとめました。行政との協働・連携についてはＮＰＯ、市民活動団体とも「経験がある」ところが多いことや会員・メンバーの確保に悩んでいることがわかりました。（詳細はゆめこらぼのホームページの「資料集」からご覧になれます）

調査は昨年9～10月、ゆめこらぼ登録団体と未登録の市内のＮＰＯ法人合わせて106団体を対象に行い、52団体から回答を得ました。回収率は49%。

地域課題の解決に有効とされる行政との協働・連携の経験について、市民活動団体は79%（19団体）、ＮＰＯは66%（同）が「ある」と答えました＝**グラフ**。経験のない13団体のうち10団体



は協働・連携する意向がありました。別のＮＰＯ・市民活動団体との協働・連携も多く行われていますが、企業とはあまり進んでいないようです。

団体の課題（複数回答）では、ＮＰＯ、市民活動団体とも「会員・メンバーの確保」が最多。市民活動団体では「活動資金の不足」がこれに続き、「事務所・活動場所の確保」「広報・情報発信力の強化」が並びます。ＮＰＯは、「収益事業の安定確保」「地域との連携」「リーダー・後継者の育成」が同数（各9団体）でした。

このほか、財政規模（2009年度）は「100万円未満」がＮＰＯ、市民活動団体とも最も多く、収入に占める割合が最も多いのは市民活動団体が会費で、ＮＰＯは行政からの受託事業収入。一方、最も多い支出は市民活動団体の大半が事業活動費ですが、ＮＰＯは事業活動費としたところと人件費としたところが同数（各12団体）でした。

☆助成金情報☆

（ゆめこらぼのホームページでは新しい募集情報が追加されている場合があります。また、詳しい内容については各助成団体のホームページをご覧ください）

◆中央共同募金会赤い羽根「災害ボランティア・ＮＰＯ活動サポート募金」助成事業

【対象】東日本大震災で被災された方々への救援・支援活動を現に行うボランティアグループ、NPO法人、社会福祉法人、学校法人、公益法人などの活動全般（全国の避難先、原子力発電所事故に伴う避難先での活動を含む）

【助成金額】1団体あたり1週間以内10万円以内、1カ月未満50万円以内、1カ月以上300万円以内

【応募期間（第2次）】6月10日

【問い合わせ先】中央共同募金会企画広報部助成金担当（☎代表 03・3581・3846、ファクス 03・3581・5755、メール support@c.akaihane.or.jp、http://akaihane.or.jp）

◆ニッセイ財団高齢社会助成▽実践的研究助成

【対象】高齢社会における地域福祉・まちづくりを探求、高齢者の自立・自己実現・社会参加などを探求、認知症高齢者に関する予防からケアまでを探求

【助成金額】2年、1件あたり200万～250万円程度、5～8件程度

【応募期限】6月15日

【問い合わせ先】日本生命財団高齢社会助成事務局（☎06・6204・4013、ファクス 06・6204・0120）

◆太陽生命厚生財団助成事業

【対象】1. 事業助成＝地域福祉活動を目的とするボランティアグループおよびNPO（法人格の有無は不問）で、①在宅高齢者または在宅障害者の自助・自立の意欲を引き出すなどその生活の支援に資する事業・費用 ②在宅高齢者または在宅障害者の福祉に関する事業をするために必要な機器、機材、備品などを整備する事業・費用 2. 研究助成＝非営利の民間団体などと個人で、老人保健、老人医療、生活習慣病に関する研究または高齢者福祉に関する研究または調査に必要な費用に対し助成

【助成金額】事業助成＝1件20万～50万円、総額2000万円。研究助成＝1件30万～70万円、総額300万円

【応募期限】6月30日

【問い合わせ先】太陽生命厚生財団事務局（電話・ファクス 03・3272・6268）

◆みずほ教育福祉財団「配食用小型電気自動車寄贈事業」

【対象】原則週1回以上の配食活動を行っているボランティアグループ（NPOなど非営利団体・法人を含む）ほか

【助成内容・金額】配食用小型電気自動車1グループ1台、10グループ程度、1台総額110万円が限度

【応募期限】6月30日

【問い合わせ先】全国老人給食協力会事務局（☎03・5426・2547、ファクス 03・5426・2548、メール info@mow.jp）、みずほ教育福祉財団福祉事業部（☎03・3596・4532、ファクス 03・3596・4531）

◆日本財団ＲＯＡＤプロジェクト「東北地方太平洋沖地震　災害にかかる支援活動助成」

【対象】NPO法人やボランティア団体、その他の公益法人で、東日本大震災による被災者・被災地支援に関わる活動

【助成金額】1団体あたり上限100万円、補助率100%

【応募期限】6月30日

【問い合わせ先】日本財団災害支援コールセンター（☎0120・65・6519）

◆三井物産環境基金東日本大震災復興助成

【対象】①NPO法人などの活動に対する「活動助成」②大学などの研究に対する「研究助成」で、持続可能な地域の復興・再生、省エネ・低炭素社会の構築、持続可能なエネルギーの確保などへの取り組み

【助成金額】1件当たりの上限はなく、総額6億円

【応募期限】第2回6月30日、第3回7月29日

【問い合わせ先】三井物産環境基金事務局（活動助成☎03・6705・6156、メール 11MBK-KankyokikinTKVCF@mitsui.com、研究助成☎03・6705・6153、メール 11MEF-KenkyuTKVCF@mitsui.com）

◆社会福祉法人清水基金一般助成事業

【対象】①障害児・者福祉の増進を目的として運営される民間社会福祉法人施設の機能整備事業②前述の施設が行う、在宅福祉サービスなど地域福祉活動推進のための機能整備事業（東日本大震災による施設整備復旧事業は優先）

【助成金額】総額2億2000万円予定。原則1法人あたり50万円以上700万円以内、70～80件程度

【応募期限】7月31日

【問い合わせ先】社会福祉法人清水基金（☎03・3273・3503、ファクス 03・3273・3505、メール shimizu-kikin@muc.biglobe.ne.jp、http://www1a.biglobe.ne.jp/s-kikin/）

◆東日本大震災復旧復興支援“がんばれ！ＮＰＯ”ＰＣ１０００寄贈プログラム

【対象】東日本大震災で被災した非営利団体、被災地およびその周辺で復旧・復興を支援している非営利団体

【寄贈PC】CPU1Ghzクラス以上のリユースPCを第1期として1000台を予定。1団体につき1台単位で原則として5台まで。

【応募期限】2012年3月31日（予定）

【問い合わせ先】認定NPO法人イーパーツ東日本大震災支援係（☎03・5481・7369、メール PC1000@eparts-jp.org）

団体登録をして
ホームページを活用してください！
http://www.yumecollabo.jp/

ゆめこらぼのホームページ開設により、登録団体は主催イベントのお知らせや事後の報告を発信できるようになりました。

参加者募集のお知らせは、実施の日時、イベント名、団体名がトップページに一覧表示されます。詳しい内容の説明を添えることもでき、写真などの画像も挿入できます。

イベント記事を投稿するには専用画面から管理画面に入りますが、そのために必要なユーザ名とパスワードを発行します。

ゆめこらぼに団体登録していただくと、とくにウェブサイト利用のための手続きは必要ありません。登録の手続きは簡単です。登録すると、ウェブサイト利用のほか、ゆめこらぼ内のメールボックスを無料で使え郵便物の受取先にできたり、サロンコーナーと印刷機の利用予約ができたりするメリットもあります。ご登録をお待ちしています。

新たな登録団体（４月～５月）

▼めだかクラブ（障がいをもつ子ももたない子も、共に遊ぶ会活動を通じて、共に生きる地域づくりをめざす）**▼西東京稲門会**（①会員相互の親ぼく②早稲田大学の発展に寄与③地域社会の発展向上に寄与）**▼東大農場・演習林を分断する都市計画道路 田無３・４・７を考える会**（豊かな東大農場・演習林の環境と住環境を守る）**▼ひまわりプロジェクト**（東大農場で大学・市・市民の協働事業として市の花ヒマワリを播種から種の収穫、搾油までを体験し、農・食の大切さ、ひいては資源循環型社会の実現の一助とする）**▼アースデイ イン 西東京実行委員会**（地球を守るためのアクションを小さなことから１人１人が気付き、行う）**▼Mamma Mia ＋**(マンマミア プラス＝子育てに悩む母親の支援、子どもたちの健やかな成長に役立つ活動)

＜登録団体は合計５６になりました＞

みんなの本棚

原子炉時限爆弾

-大地震におびえる日本列島-

広瀬 隆<著>

ダイヤモンド社／1575 円

昨年 8 月に出版された本書で、著者は「何カ月後か何年後か分らないが、大地震は迫っている」と述べて、「原発震災が日本を襲う」と警告している。そしてフクシマである。

著者広瀬さんは、国民一人ひとりが原発の「安全性」について真剣に考えてほしいと熱く説く。日本には「強固な岩盤」が存在しないことを、地震や地球の基礎知識から分かりやすく解説したうえで、浜岡原発を揺るがしかねない「東海大地震」など原発震災の危険性を訴えている。

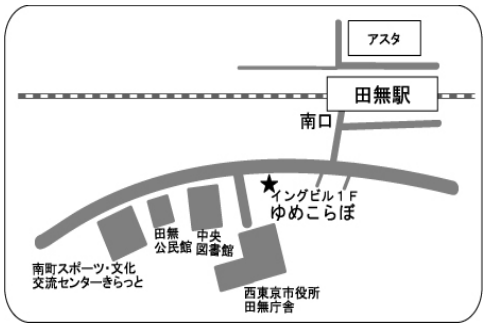
また、原子力発電には「復水器」という熱変換機を通して冷却・排熱し続けなければ「メルトダウン」する構造的なリスクがあると指摘するが、説得的で一般読者にも容易に理解できる。

さらに、「体内被曝」や食物連鎖による濃縮など放射能の危険性を説き、プルサーマル計画や高レベル放射性廃棄物の最終処理にも警鐘を鳴らしている。

原発問題に関する本は昨今数多く出版されているが、本書は筋金入りの「脱原発」本としてお勧めの一冊である。　（西口　徹）

○…４月からゆめこらぼで働きはじめた、保坂勇祐です。愛着のある西東京市で、たくさんの人とかかわりながら仕事がしたいと思い、ここを志望しました。ギターや旅行、読書に料理など多趣味な人間です。みなさんの市民活動をより良くサポートできるよう、日々精進してまいります。よろしくお願いします！！

○…北海道出身。小学校から高校まで、1 クラス常に 55 人以上いた団塊世代です。保険・不動産業界で大半を過ごし、現在は親の介護と家事修行中。4 月末からゆめこらぼで働く機会を得、同世代・諸先輩の多分野での仕事ぶりに感服。出会いと絆を大切に、感謝の気持ちを忘れずに、かすむゴールに向かって今を大事に生きたい。（佐藤哲郎）



開館日：水～月（10 時～21 時）土・日・祝日オープン
休館日：火曜日（祝日の場合は開館し次の平日に休館）・年末年始
〒188-0012　西東京市南町 5-6-18　イングビル 1 階
西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ
Tel: 042-497-6950　　FAX: 042-497-6951
E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
URL: http://www.yumecollabo.jp/